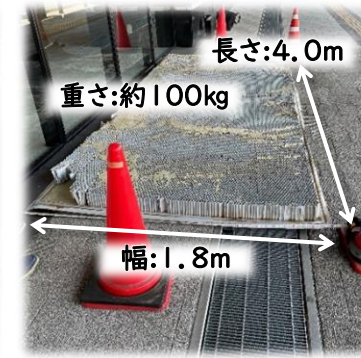
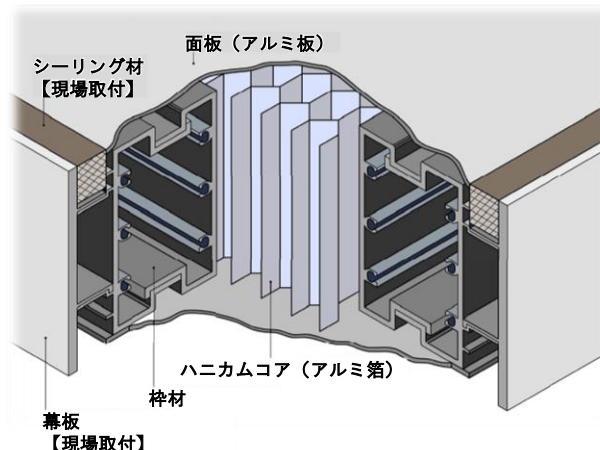


1. アルミハニカムパネルの概要

- ◆ アルミハニカムパネルとは、ハニカムコア(蜂巢形状のアルミニウム合金箔)を上下2枚のアルミ板でサンドイッチする構造で、ハニカムコアとアルミ板の接着剤等で接合したもの。
- ◆ 7.24の落下事故は、パネルの一部(1.8m×4.0mのハニカムコアと下面板)が上面板から剥離、落下した。

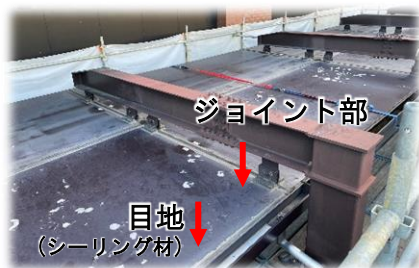


2. 落下事故の調査及び原因

本事故は、**パネル内部に「水」が浸入、滞留**したことが原因となり、「**パネルの重量増加**」及び「**接着剤の接着強度の低下**」が生じて、**落下に至ったものと判断**

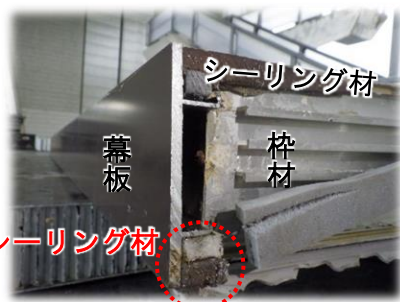
部材同士の継目の劣化等

- 片持ちアームとパネルのジョイント部の雨仕舞
- 面板と幕板との間のシーリング材
- 枠材の突き合わせ部の隙間 等



水の抜け道がない

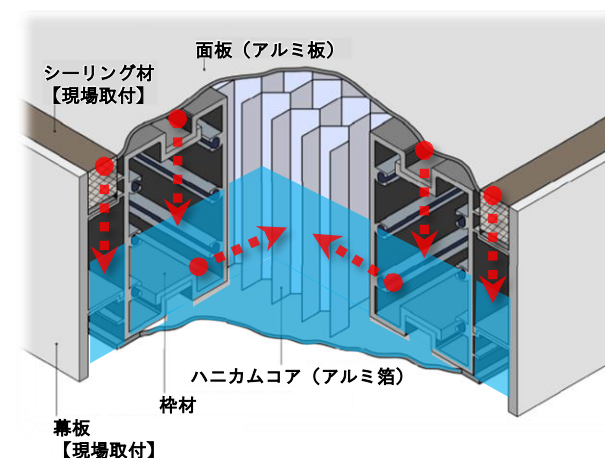
- パネル下面のシーリング 等
- ⇒パネル内の水が排水されず



パネル内に水が滞留

パネルに水の重量が加わる

- 今回落下したパネルの部材の重量は約100kg
 - さらに、約360kgの水が滞水していた可能性
- ⇒落下した部材の重量は通常の**“4倍以上”**



接着剤が長期にわたり水にさらされる

- 接着剤メーカーから「水が浸入すれば接着剤の劣化に影響あり。」との意見あり
- ⇒接着強度の低下



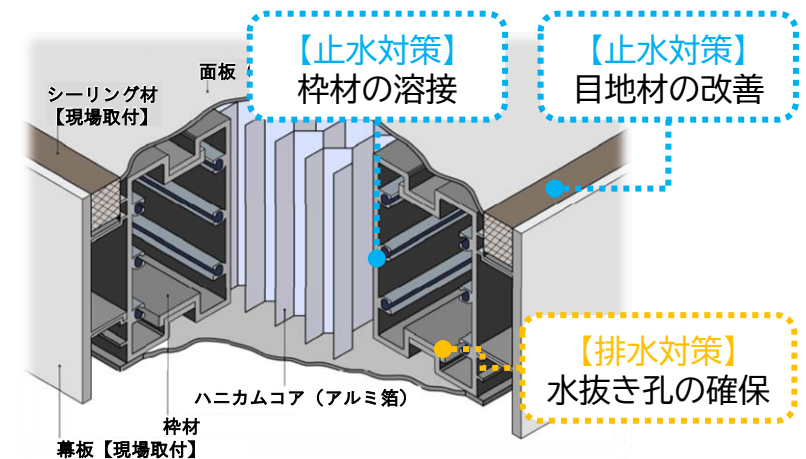
事故発生(パネルの落下)

3. 復旧方法

- 「安全性」、「早期復旧」、「経済性」、「景観性」を比較し、再発防止策を講じた「**アルミハニカムパネル**」にて復旧
- 事業費:200,000千円【内訳：通常補正:80,000千円、債務負担:120,000千円(R6)】
- 令和6年(2024年)春頃の復旧を目指す。

①「安全性」・・・ 技術的基準が改善(止水、排水対策等の再発防止策により、安全性を確保)

- 平成29年(2017年)10月に、ハニカムパネルの製品設計・製作・施工のマニュアルが改正。



従来	止水・排水対策の記載なし
今回改正	<u>目地や排水孔等の技術的基準が明記</u>

②「早期復旧」・・・ 屋根の再設置のみ(既存柱を再利用)のため、早期復旧が可能

アルミハニカム	屋根の再設置のみのため、発注～現場工程が短い。
他素材	既存の柱等に、アルミハニカム以外の屋根を再設置するのは、構造的妥当性を判断できない。シェルターのデザイン及び設計が必要。基礎の撤去等により施工日数もかかる。

③「経済性」・・・ 既存の柱、梁等を再利用することができ、経済性に優れる

アルミハニカム	2億円 <	他素材	2億円以上
---------	-------	-----	-------

④「景観性」・・・ JR上熊本駅駅舎との調和

アルミハニカム	駅前広場のデザインは、地元や上熊本駅舎を活かしたまちづくりの会等の意見を踏まえて決定。残存する隣接工区のアルミハニカムパネルとの連続性・一体性も確保。
---------	---